歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財

絵を描くときに、紙ではなく、絹布を画面として使ったものを「絹本」といいます。古い仏画の多くは、絹本です。

神島外浦の日光寺に伝わってきたこの「地蔵十王」の図は、日本の作品ではなく、朝鮮（当時は高麗といいました）で十四世紀頃に制作され、交易等によってわが国にもたらされたものです。このような地蔵十王の図が、瀬戸内海沿岸の地域にいくらか残っています。朝鮮半島との交流を物語る歴史的遺産であると同時に、当時の日本で、この種の仏画が高く評価され、また必要とされていたことがうかがえます。

画面には、中央に大きく地蔵菩薩、その下には、二菩薩、十王、四天王、道明和尚らがほぼ左右対称に描かれています。

この図は、唐の大暦年間のこと、道明和尚が死去して地獄に落ち、閻魔庁で十王の裁きを受けたところ、人違いと分かり、地蔵菩薩の力によって現世に戻ったというお話をモチーフにして描かれたものです。

なお、この作品は現在、岡山県立博物館に寄託されています。

絹本著色地蔵十王像

国指定重要文化財
（絵画）

竹喬美術館みどころ４

国画創作協会の素描

土田麦僊
＜舞妓＞
大正8（1919）年頃

国画創作協会は大正7年に創立された美術団体で、若い画家たちによる、情熱と個性にあふれた数々の作品を世の中に送り出しました。しかし、結成からわずか10年後には解散したため、その存在と同様に、同展で活躍した画家たちの多くも忘れ去られた存在となりました。

その国画創作協会の創立メンバーの一人が、土田麦僊です。明治20年に佐渡に生まれ、京都の竹内栖鳳に師事しました。2歳違いの小野竹喬とは、画塾での自炊生活をはじめ、国画創作協会の設立、渡欧と行動をともにしており、生涯にわたる深い交流がありました。

竹喬は、麦僊のことを大変な勉強家であったと語っています。この舞妓の素描でもいくつもの線がひかれており、完成作では見られない、画家の苦心のあとがしのばれます。

展覧会と行事のご案内

国画創作協会の素描
会期中～10月5日㈰
休館日 毎週月曜日
（ただし9月15日は開館し、翌日休館）
開館時間 9:30～17:00
（入館は16:30まで）
市内小中学生および65歳以上の人は入館無料です。

ギャラリートーク
作品の解説をします。入館料のみ必要です。
8月16日㈯、9月6日㈯・20日㈯
13:30～14:30

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html

今月の表紙

焼けるような日差しの下、次々と海へ飛び込み大はしゃぎの子どもたち。

7月6日、白石島で海開きツアーが行われ、市内外から家族連れら約150人が参加しました。

海水浴に地引き網、シーカヤックや釣りなど思い思いの「海」を満喫。午後からはスイカ割りも行われ、振り下ろされるひと振りごとに沸き上がる大歓声。最後まで笑顔の絶えない一日となりました。

係から

今月8日からいよいよ北京オリンピックが開幕します。個人的には星野ジャパンに金メダルを獲得してもらいたいと応援していますが、全ての競技において、日本人選手が活躍する姿を今から楽しみにしています。

夏本番で、まだまだ暑い日が続きますが、体調管理に気をつけて夏を乗り切りましょう。（土）

発行日／平成20年8月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／㈱国輝堂　☎67-5111

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association
※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。